

## 追悼

# 茅野實さんを偲んで

去る9月2日、茅野 實(ちの・みのる)初代会長が亡くなり(享年88)、11月1日、お別れの会がホテル国際21(長野市)で開かれました。

今号の『エコシン』は追悼号として、生前親交のあった皆様からお寄せ頂いたメッセージを紹介し、その業績と人柄を偲びます。

〈略歴〉1933年4月10日、岡谷市に生まれる。

長野県諏訪清陵高等学校、東京大学法学部卒業後、1956年八十二銀行入行。

1994年～2001年頭取、会長を経て2003年～2005年顧問。

1998年11月、長野県環境保全協会を設立、初代会長に就任(～2014年9月)。

2003年勲三等瑞宝章受章。2016年長野県知事表彰(環境保全功労者)。



今さえ良ければという短い視野を超え、  
子孫への遺産として、少なくとも現在程度の生存環境を残していきたい。

長野県環境保全協会会報 創刊号(1998.12.1)

## メッセージ ～どうぞ安らかに～ (敬称略)

伊那食品工業株式会社  
最高顧問 塚越 寛



茅野さんとは年に何回かお会いする団体に参加していましたが、コロナ禍で

中止するはめになり、しばらくご無沙汰をし、多分お元気だろうと思っていた矢先の訃報でした。

扇会のもととなった八十二青年経営者研修会では、何回か茅野さんと激論を交わし、その思慮深い考え方に影響されたものです。頭取になられて、かねてから深い関心を寄せられていた環境保全活動の具体化を図り、自ら発起人となって長野県環境保全協会を作られた行動力に、さすがと思わずにはいられませんでした。手伝って欲しいと言われ、微力ながら私も協力をしてまいりました。

人を愛し、お酒を愛し、環境を愛した茅野さん。心からご冥福をお祈り申し上げます。



長野県環境保全協会  
初代事務局長 吉池 章浩

突然の悲報にお元氣な笑顔が目に見え、どうなさいましたと問いかけた紙面でした。ご趣味の蝶の採集を通じ環境破壊の進行を察知、20年も前から環境保全活動構想を練られ、茅野当時頭取の「何とかしなければ環境破壊が進む」との長年の強い思いを受け、保全活動に四苦八苦したのを思い出します。設立時の協会理事は県内有力企業の社長様方で「茅野さんに言われれば仕方ない」と、全国初の企業主体の組織として始動。産官学民挙げての活動に発展したのも茅野前会長の強い信念とお人柄の賜で、正に長野県環境保全の父であられた。

永遠の眠りに安らかならんことを深くお祈り申し上げます。



長野県地球温暖化防止活動推進センター 元事務局長 青柳 光昭

地球温暖化防止活動推進センターには、全国センターと地域センターがありますが、平成22年、それまでの全国センターの運営団体に替わり「地球温暖化防止全国ネット」が各地域センターの運営母体により設立されました。その設立準備会に茅野会長(当時)と出席しましたが、その席上、旧来の上意下達の組織ではなく各地域センターが主役の組織に衣替えする必要性やあるべき姿を呼びかけたのが茅野会長でした。そして、名称を「地球温暖化防止全国ネット」とするよう提案したのも我々でした。全国ネットの立ち上げは、いかにも茅野会長らしい信念に基づいたものであったと強く記憶しています。因みに全国ネットのメインバンクは大手行ではなく八十二銀行ですが、それは地域が主役だという茅野会長の思いを受け止めて形にしてくれた当時の全国ネットの皆さまです。あらためて茅野会長のご功績に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

## 長野電鉄株式会社 代表取締役社長 笠原 甲一



私が長野電鉄の社長になったのが平成9年の6月でした。会社は昭和30年代の鉄道が絶好調の時に大勢採用した職員の退職の時期に当たり、毎年引当切れずに損金が多額に発生する苦しい時期でした。もちろん相談に行くのは八十二銀行。茅野さんとは頭取になられる前から囲碁を通じて仲間に入れていただいていた。茅野さんは実力が格上ではありましたが、度々八十二銀行本店別館地下で碁仲間とご一緒に楽しい時間を過ごしていました。そんなこともあり茅野さんには長野電鉄の事業のこと、社会活動のことなど色々と大事な相談に乗っていただいた。

又茅野さんは銀行支店の方と飲み会、今でいうと車座で懇親を深められていたが、当社隣接の支店との懇親会の時には私も呼ばれ、私が会費を払おうとすると、茅野さんは「俺に恥をかかせるつもりか」と怒られたことも忘れられない思い出です。茅野さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 自然エネルギー信州ネットワーク 会員 小田切 奈々子

官民大学が一緒になって自然エネルギーの普及に取り組む全県ネットワーク「自然エネルギー信州ネットワーク」が2011年に設立され、私は立上げメンバーとして運営に携わりました。この組織を支えてくださったのが初代会長である茅野實さんです。「社会を変えるには50年かかります。がんばりなさい。」八十二銀行で50年間、信州の移り変わりをご覧になってきた方の言葉は、強く私たちの背中を押しました。いつも大きな笑顔でみんなを励ましながら、人とのつながりの大切さ、キラリと光るお金の使い道、おいしいお酒の飲み方を教えてくださいました。

茅野さんから渡された「たすき」を必ず次世代につなげますので、どうぞお見守りください。ありがとうございました。



## 有限会社 花の銀杏園 大井 友浩

私は茅野さんのいわゆる現役時代を知らない。私がかつての、店で一番安い焼酎のお湯割りをあおりながら、今にも燃焼部が指先に到達しそうな煙草をそれでも離さず、いつまでも戦争や経済など、多岐にわたり熱く語っていた姿だ。私たちの悩み事にもすっかり耳を傾けてくれ、いつもちっぽけな悩みだと気が付かせてくれた。初めて出会った頃の私は30歳ぐらい。圧倒的な知識量の差で、当時の私には茅野さんが何を言っているのかほとんど理解できなかった。本当に情けなくて…、しかしこれが今思えば転換点となった。いつしか対等に茅野さんと語り合える日を夢みて、私に出来ること(新聞3紙をじっくり読む、自分の意見を投稿する)を10年ぐらい続けている。夢は叶えられなくなりましたが、私を変えてくれた茅野さんには本当に感謝の言葉しか思い浮かばない。どうか空から気長に私を見ていてください。期待は裏切りません。



## 日本昆虫協会 長野支部事務局長 栗田 貞多男

私にとってはチョウを通して、さまざまな教訓を戴いた茅野實さんとの30年でした。1992年、日本昆虫協会長野支部が発足し、茅野さんに支部長をお願い申し上げ、ご快諾いただきました。子供たちとの採集観察会やジバチを探して巣を掘り出しジバチ御飯を堪能するなど、いつもにこやかでナップザックを背にスタスタと野山を歩き回られておられた姿が昨日のように想い起こされます。

茅野さんの自然や虫との最初の出会いは、お兄さんと一緒に行った4・5歳ごろの昆虫採集からとか…。チョウの翅の美しさとその違いにドキッとした。そしてまた、人間と自然のいちばんの違いは、人間のつくったものはすぐに底が見えてしまうが自然のものは調べれば調べるほど奥があるということ。物事を見るには表面だけではなく、いざという時でも虫たちならどんな行動をするだろうかと考えるとヒントが見つかる…と言われました。



茅野さんのチョウに対する想いは、実際に飛んでいる場所に行き、見て、たわむれて、採るということ。自分の目で見て、その生態や生息環境を知ること。

このことは人と自然環境との共生を目指す、新たなサステナブル社会への明確で分かりやすい指針ともなると思います。

お忙しいところご寄稿くださった皆様、ありがとうございました。